

副官ヨリ陸軍技術本部長へ
首題ノ件八月八日附陸技本甲第二七八號
上申ノ通可被定ニ付該圖面各八十六通
送付セラレ度

三八三三

昭和五年九月參日

右圖面送付アリタル後左案決行相成度

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ

首題ノ件別紙圖面ノ通定メラレニ付該圖
面並概説左記ノ通送付ス

左記

八九式機銃彈藥八九式普通實包圖

六同

八九式鋼心實包圖

六同

八九式燒夷實包圖

六同

八九式曳光實包圖

六八九式

同機關銃擬製彈圖

六八九式

同機關銃彈藥八九式各種實包概説

三八六二

昭和六年九月拾五日

昭和六年十二月拾日

各部

陸軍

別紙
陸軍
參謀
四七六

甲 二七八

八九式 旋回 機銃實包並同擬製彈假制式制定ノ件上申
固定

昭和五年八月八日

陸軍技術本部長 吉田 豊彦

陸軍大臣臨時代理陸軍中將 阿部 信行 殿

首題ノ彈藥並擬製彈ハ審査ノ結果實用ニ適スルモノト認ムルヲ以テ假制式トシテ
制定セラレ度左記圖書相添へ上申ス

左 記

- 一 八九式 旋回 機銃彈藥八九式普通實包圖
- 一 八九式 固定 機銃彈藥八九式鋼心實包圖
- 一 同 八九式燒夷實包圖
- 一 同 八九式曳光實包圖
- 一 八九式 旋回 機銃擬製彈圖
- 一 八九式 固定 機銃擬製彈圖
- 一 八九式 旋回 機銃彈藥八九式各種實包概説
- 一 八九式 固定 機銃彈藥八九式各種實包概説

昭和五年八月九日

陸軍省
5. 8. 9
2
銃砲課

陸軍

0538

八九式 旋回
固定 機關銃彈藥八九式各種實包概説

昭和五年八月
陸軍技術本部



一、目的

第一 八九式普通實包

二、構造

八九式旋回及固定機關銃ニ使用シ殺傷威力ヲ主目的トス

彈丸ハ三八式銃實包ノ彈丸ト同一要領ノ構造ニシテ中徑七耗八五長サ二九耗三トシ被白銅鋼製被甲及硬鉛製彈身ヲ有ス

藥莖ハ半起緣式ニシテ爆粉〇瓦〇二五入雷管ヲ裝ス

挿彈子ハ黃銅製トシ其ノ構造三八式銃實包ノモノト同一要領ニシテ實包五發ヲ挿入シ得

三、本實包ノ諸元左ノ如シ

彈丸重量 約一〇瓦五

裝藥 無煙小銃藥 乙 三瓦

實包重量 約二四瓦四

第二 八九式鋼心實包

一、目的

八九式旋回及固定機關銃ニ使用シ主トシテ敵飛行機ノ装甲部、發動機又ハ油槽等ニ對シ侵徹破壊ヲ目的トス

二、構造及機能

彈丸ハ中徑七耗八五長サ三五耗ノ彈尾狹搾彈ニシテ黃銅製被甲及至硬鋼若ハ之ニ類スル特殊鋼製彈身ヨリ成ル

本彈丸鋼板ニ命中スルヤ被甲ノ頭部ハ壓壞セラレテ後方ニ反跳シ彈身ハ鋼板ヲ貫通ス

1、侵徹威力 各國ノ代表的特殊鋼板ニ對スル貫通距離ノ限界ヲ表示セハ大要左ノ如シ

2、發動機ノ油槽ニ對スル開孔機能

液ノ漏出ヲ防護スル目的ヲ以テ油槽ノ外周ニ「コルク」又ハ護膜ノ類ヲ張
 レルモノニ對シ射撃セル成績左ノ如シ

貫徹距離 (米)	鋼板ノ厚サ (耗)
1200	4
1000	5
900	6
800	7
700	8
600	9
300	10
200	12

「コルク」張ノモノニ對シテハ貫通ニヨリ彈痕全ク挫壞シテ翻然ト漏孔ヲ
 成形シ護膜張ノモノニ對シテハ其ノ射入口收縮シテ小孔トナリ液ノ漏出稍
 困難トナルモ射出出口ノ護膜壁ハ油槽ト共ニ表面ニ反起スルヲ以テ液ハ容易
 ニ流出ス以上ハ比較的近距离ニシテ彈丸活力ノ大ナル場合ニ於ケル普通狀
 態ナルモ距離大トナリ存速減少スルトキハ被甲ハ油槽壁ト其ノ防護壁トノ
 中間ニ介在シ而モ其ノ底部ニアル小孔カ擴開スル關係上恰好ノ漏孔ヲ成形
 ス

圖 軍

3、發動機ニ對スル破壞威力

四耗級鋼板ノ背後ニ飛行機用發動機ヲ置キ一〇〇米附近ヨリ射撃セハ貫通
彈丸ハ發動機ノ要部ニ侵徹シ殆ト完膚ナキマテニ破壞スルコトヲ得

本鋼心彈ヲ連續發射スルトキハ被甲カ腔面ニ附着シ命中精度ヲ害スル傾向ア
ルモ普通實包ノ小數發射ニヨリテ容易ニ之ヲ除去シ得ルカ故ニ實用上差支ナ
キモノト認ム

挿彈子及藥莢ハ普通實包ノモノニ同シ

三、本實包ノ諸元左ノ如シ

彈丸重量 約一〇瓦五

裝藥 無煙小銃藥 乙 三瓦

實包重量 約二四瓦四

第三 八九式燒夷實包

一、目的

八九式旋回及固定機關銃ニ使用シ其ノ普通實包ト混スルカ又ハ本實包ノミヲ
連續發射シ敵ノ航空機ノ油槽若ハ氣球ノ氣囊ニ命中點火セシメ以テ之ヲ燒夷
スルヲ目的トス

二、構造及機能

十一年式七耗七燒夷彈ニ同シ

三、本實包ノ諸元左ノ如シ

彈丸重量	約一一瓦
裝藥 無煙小粒藥 乙	三瓦
黃磷重量	約〇瓦九五
實包重量	約二四瓦九

陸

軍

第四 八九式曳光實包

一、目的

八九式旋回及固定機關銃ニ使用シ其ノ普通實包ト共ニ一連ノ彈倉中ニ混シテ發射スルモノニシテ彈丸内部ノ光劑ニ依リ射手ヲシテ直接ニ彈道ヲ目視セシメ以テ射彈ヲ有効ニ指導シ得シムルヲ目的トス

二、構造及機能

十一年式七耗七曳光彈ニ同シ

挿彈子及藥莢ハ普通實包ノニ同シ

三、本實包ノ諸元左ノ如シ

彈丸重量 約一一瓦

裝藥 無煙小銃藥 乙 三瓦

光劑重量 約二瓦

實包重量 約二四瓦九

陸軍

第五 審査經過ノ概要

一、本各種實包ハ何レモ大正九年七月參第三九八研究方針ニ基キ研究セルモノニシテ普通實包ハ航空機用機關銃ノ研究ニ伴ヒ研究ヲ繼續シ昭和三年十二月明野飛行學校ニ於ケル八九式旋回機關銃ノ實用試験ニ於テ試験ヲ完成セリ其ノ後本實包ヲ固定式機關銃ニ兼用スル目的ヲ以テ該銃ノ審査ニ關聯シ研究ヲ繼續シ多少ノ修正ヲ加ヘテ兩銃ニ兼用ノ目的ヲ達成セリ

二、鋼心實包ハ大正十四年五月ヨリ昭和三年二月ニ至ル間四回ノ試験ニヨリ研究ヲ完成セルモノナリ

三、燒夷及曳光實包共ニ彈丸ノミハ十一年式トシテ假制式制定済ナルモ實包トシテハ銃ノ審査未了ノ爲未制定ナリシカ今回普通實包其他ト同時ニ之ヲ八九式旋回及固定機關銃實包トシテ使用スルコトニ審査完了セルモノナリ

0546

五年
陸軍省
四七六

陸技本甲第四四七號

八九式 旋回 機關銃實包並同擬襲彈圖面送付ノ件通牒

昭和五年十二月十八日

陸軍技術本部副官

八木

録

郎

陸軍省副官

原

常

成

殿

本年九月三日附陸普第三八二三號通牒ニ係ル首題ノ圖面（五枚）各八拾六通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度

5 12 19

陸軍省
5. 12. 19

陸

軍